

地域計画

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	令和8年3月31日 (第1回)
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	山ノ内町 205613
地域名 (地域内農業集落名)	西部地区 (本郷、宇木、横倉、前坂)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	422.961485 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	367.45 ha
② 田の面積(現況)	36.46 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	375.8953 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	5.25 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	0 ha
(参考)区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	ha
(備考)	

- 注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。  
 2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。  
 3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。  
 4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。  
 5:(参考)の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。  
 6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

当地区は、りんご、ぶどう、もも等を栽培する果樹地帯であり、栽培に適した気候風土の恵まれているほか、灌漑施設が整備されているため、高品質な作物を生産している地域である。また、近年は、若手の農業者やIターンによる新規就農者を中心にぶどう栽培が盛んであり、改植も積極的に行われている。しかしながら、高齢化等に起因する貸借希望農地の流動化は、規模拡大予定の農家数の少なさもあり、何とかやり繰りしているのが現状である。さらに、当地区は中山間地域であり、山際から遊休農地化が進んでいることから、鳥獣害の増加が顕著となってきている。これらの現状を踏まえ、Iターンの受け入れ等の新たな担い手の確保、遊休農地の解消、有害鳥獣への対策など、当地区が高品質な農産物を持続的に生産するために取り組むべき課題は多岐にわたっている。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

温暖化等の気候変動の影響で果樹栽培が年々困難となる中、りんごやぶどう、もも等の栽培に有利な気候風土を生かし、優良な果樹産地として人(=担い手)や農地を維持し、活気ある農村であり続けることが当地区の将来像である。また、農地が空いてきていることを前向きに捉え、積極的に改植事業を行い、気候変動に対応した品目への転換、新品種の導入、省力栽培等を進めていく。それらにより、当地区の果樹産地としてのブランド力を向上させていく。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針

標高差のある当地区の立地条件の良さを最大限引き出すため、標高による栽培作物のゾーニング(高標高地はりんご、中低標高地はぶどう、もも等)を意識して流動化を進める。また、中核となる担い手の経営方針に沿った農地の集積・集約化を進める。さらに、営農組合を中心に、特に優良立地にある農地の遊休化を防ぎ、新規参入者等、農地希望者が現れた際の農地確保に努める。

(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標

現状の集積率	34 %	将来の目標とする集積率	60 %
--------	------	-------------	------



